助成金・給付金の活用
業者は社会保険加入を

アーチ広島社会保険労務士法人
代表社会保険労務士
遠地 謙介 氏

「厳しい経営環境の中で、返済のいらない助成金・給付金がこんなにある」というテーマの講座で講師を務めたのは、遠地謙介氏（アーチ広島社会保険労務士法人・代表社会保険労務士）。

10年前に商社や経営コンサルタント、社会保険労務士の会社を経て事務所を開設したのが始まりで、その後、アーチ広島社会保険労務士法人に組織変更し、代表社会保険労務士に就任。助成金に関して年間200件以上の業務を手がける助成金活用のエキスパートで、ほかにも、社会保険労務士業務として、人事、労務管理に関する相談・指導、労働社会保険の手続き代行、就業規則、賃金規定などの作成・改善などに携わっているが、あわせて行政書士業務やCFPファイナンシャル・プランナー、DC（確定拠出年金）アドバイザーも行っている。

このたびの講座について、「全く知られていない助成金・給付金の話もたくさんあり、これが『面倒くさい』『手間がかかる』などの理由で活用されないのはもったいない。また、それ以前の話として、建設業者の中には社会保険に未加入の業者も見受けられる。これについては現在、国交省から加入への周知が図られている」という。

独立して10年。仕事上、特に印象に残っていることは「4年前のリーマンショックの時、中小企業の緊急雇用安定助成金の活用制度（俗に雇調金）が創設されて随分、活用された。労働者の失業予防を目的に国が行った支援措置で、雇用を守りつつ支給申請のお手伝いができ、大変に喜ばれた。今も引き続き受給事業者とのお付き合いは続いている」と微笑む。

社員指導については「当たり前のことであるが、きちんと書類を仕上げること。一つひとつの積み重ねであり、顧客に信頼される事務所づくりを目指したい」として、これからも気負いない構えを示したいとしている。

最後に、建設業への要望について、「業界自体に元気がなく、先ほどの保険加入のような仕組みが整備されていかないと、優秀な建設業界の社員が他の業界に移ってしまうこととなり、非常に残念である」とキッパリ。

＝遠地所長の横顔＝

広島修道大学法学部を卒業。座右の銘は『一期一会』。趣味は磯釣り。健康法は「特になく、好きな仕事をしていること。酒もタバコもやらない」とかで、精力的、誠実に業務の推進を図る。

事務所は広島市中区上八丁堀のアーバンビューグランドタワー10階。電話082－222－8801。http://www.office-onji.com

並行して東西方向に長さ約180m（幅員約

の再整備と合わせて約50億円を見込んでおり、これまでに予備設計業務を協和コンサルタンツ、地質調

所は15日、WTO適用による総合評価方式の一般競争入札で「沼田川工業用水道事業尾道ライン管

を公告した。土木一式の格付の組合せがA・A・AまたはA・A・Bの3者で構成するJVを対象に入札参加希望書を10月29日まで同事務所総務課で受け付け、技術資料を11月30日までに提出すること。入札期間は11月29日、30日、開札は12月3日午前10時。な

制度を試行導入する。加算点の最高点数は50点。

参加資格＝土木一式工事の格付の組合せがA・A・AまたはA・A・Bによる3者JV（Bは1092点以上の総合数値を有する者）、年間平均完成工事高の構成員全員の総額が予定価格の21億2067

施工実績を有する（特定共同企業体の構成員実績は出資比率20％以上）

技術提案の評価内容は実施方針、品質に関する課題は中詰充填材の品質確保に関する技術提案、二次覆工の品質・耐久性の確保に関する技術提案、施工に関する課題は国道2号の

m（セグメ
20㎜）、到
割込立坑1
内配管工（
管φ135
7・7m、立
進・到達・割
改良工一式
工期＝28
（約38カ月）

三原市

「橋梁長寿命化修繕計画」策定
予防保全に毎年1.5億円投入

【福山】三原市は、市が管理する橋梁1032橋（L2m以上）を対象に、橋梁長寿命化修繕計画を策定した。高齢化橋梁の急速な増大に対応するため、アセットマネジメントを導入し、橋梁の補修・架け替えに係る費用の平準化を図る。

計画では、今後60年間の橋梁維持管理費用について、事後保全（145億円）と予防保全（96億円）で試算。比較の結果、約49億円のコスト縮減を見込んでおり、今後は毎年、予防保全費用として約1・5億円を投入し、市内道路網の安全性・信頼性を確保する。

対象橋梁はコンクリート橋（RC橋、PC橋、BOXカルバート）が全体の約86％を占める一方で、橋長15m未満が全体の約83％。これらの多くは昭和35年から昭和60年の高度経済成長期からバブル期にかけて架設。一般的な寿命とされる50年程度に照らすと、今後10・20年後にかけて急速な高齢化が進むと予想する。

市では、平成22年度までに全橋梁の点検を完了済み。今後の定期点検では、「広島県定期点検要領」に基づき、5年に1回行うことを基本に、地震時・異常気象等の際には緊急点検を行う。また、橋長2m未満は道路パトロール等により現状の把握に努めるとしている。

今後は、橋梁の損傷状況に加え、跨線橋及び跨道橋など利用者及び第三者への社会的影響や災害時における避難経路の確保、バス路線・生活道における迂回路等の橋梁特性を踏まえて補修の優先順位を定め、順次、予防保全を実施していく方針。

計画策定にあたっては、中山隆弘氏（広島工業大学工学部建設工学科教授）、米倉亜州夫氏（広島大学名誉教授）、藤井堅氏（広島大学大学院工学研究科教授）から意見聴取を行った。

市が管理する主な橋梁は次の通り

▽橋梁名
架設年の順
【三原地区
▽沼田大
L316m
▽糸崎1
橋梁＝PC
2m、平成1
▽納所橋
21m、昭和
▽本市橋
110m、昭
▽曙橋＝
9m、平成11
【本郷地区
▽船木大
102・6m
【久井地区
▽三河橋
106m、平
【大和地区
▽翔竜大
L101m
▽中央大
80・2m、昭